

3:1 ああ、愚かなガラテヤ人。十字架につけられたイエス・キリストが、目の前に描き出されたというのに、だれがあなたがたを惑わしたのですか。

3:2 これだけは、あなたがたに聞いておきたい。あなたがたが御霊を受けたのは、律法を行ったからですか。それとも信仰をもって聞いたからですか。

3:3 あなたがたはそんなにも愚かなのですか。御霊によって始まったあなたがたが、今、肉によって完成されるというのですか。

3:4 あれほどの経験をしたのは、無駄だったのでしょうか。まさか、無駄だったということはないでしょう。

3:5 あなたがたに御霊を与え、あなたがたの間で力あるわざを行われる方は、あなたがたが律法を行ったから、そうなさるのでしょうか。それとも信仰をもって聞いたから、そうなさるのでしょうか。

3:6 「アブラハムは神を信じた。それで、それが彼の義と認められた」とあるとおりです。

3:7 ですから、信仰によって生きる人々こそアブラハムの子である、と知りなさい。

3:8 聖書は、神が異邦人を信仰によって義とお認めになることを前から知っていたので、アブラハムに対して、「すべての異邦人が、あなたによって祝福される」と、前もって福音を告げました。

3:9 ですから、信仰によって生きる人々が、信仰の人アブラハムとともに祝福を受けるのです。

ガラテヤの教会にはにせ教師が入って来て、律法を守り割礼を受けなければ救われないと説きました。

律法も割礼も悪いことではありません。どちらも主の命令に従うという点では、むしろ良いものです。しかしどんなに良いものでも、イエス様の十字架と同列に置くことはできません。ましてやイエス様の救いのみわざに欠けがあるかのように、救いの条件としてしまうのは大きな過ちです。

ですから教会でも、十字架の救いが条件であるはずの洗礼に関して、長く礼拝に来ているから、両親が熱心なクリスチャンだから、奉仕して下さっているから、などということ受先を勧めたりはしないのです。

また救われた後も信仰の成長のために必要なのは聖霊であって、決して律法ではありません。私たちも何かの律法的基準を設けて、完成されているとかいないとかを議論することはないのです。救われた後の良い行いは、すべて聖霊によって、イエス様を愛する思いから生まれるものであって、自分の頑張りで人と比べて達成するようなものではありません。

律法はユダヤ人の専売特許と思われませんが、その始祖アブラハムも、「神を信じ、それが彼の義とみなされ」、信仰によって異邦人も救われるからこそアブラハムによって「すべての国民が祝福される」との約束があったのです。

ですからあらゆる点からいって、救いも成長も律法的な頑張りによるものでなく、すなわち人間の力ではなく、神である聖霊の力です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

